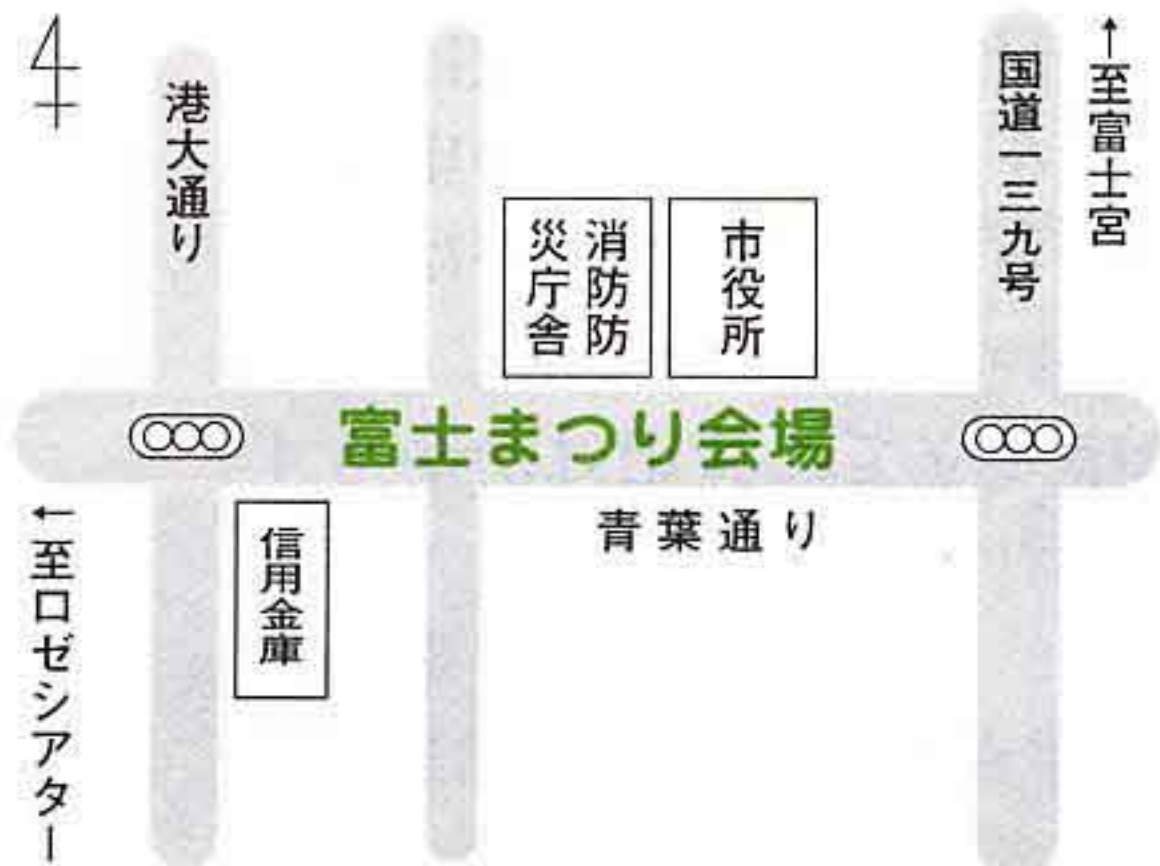
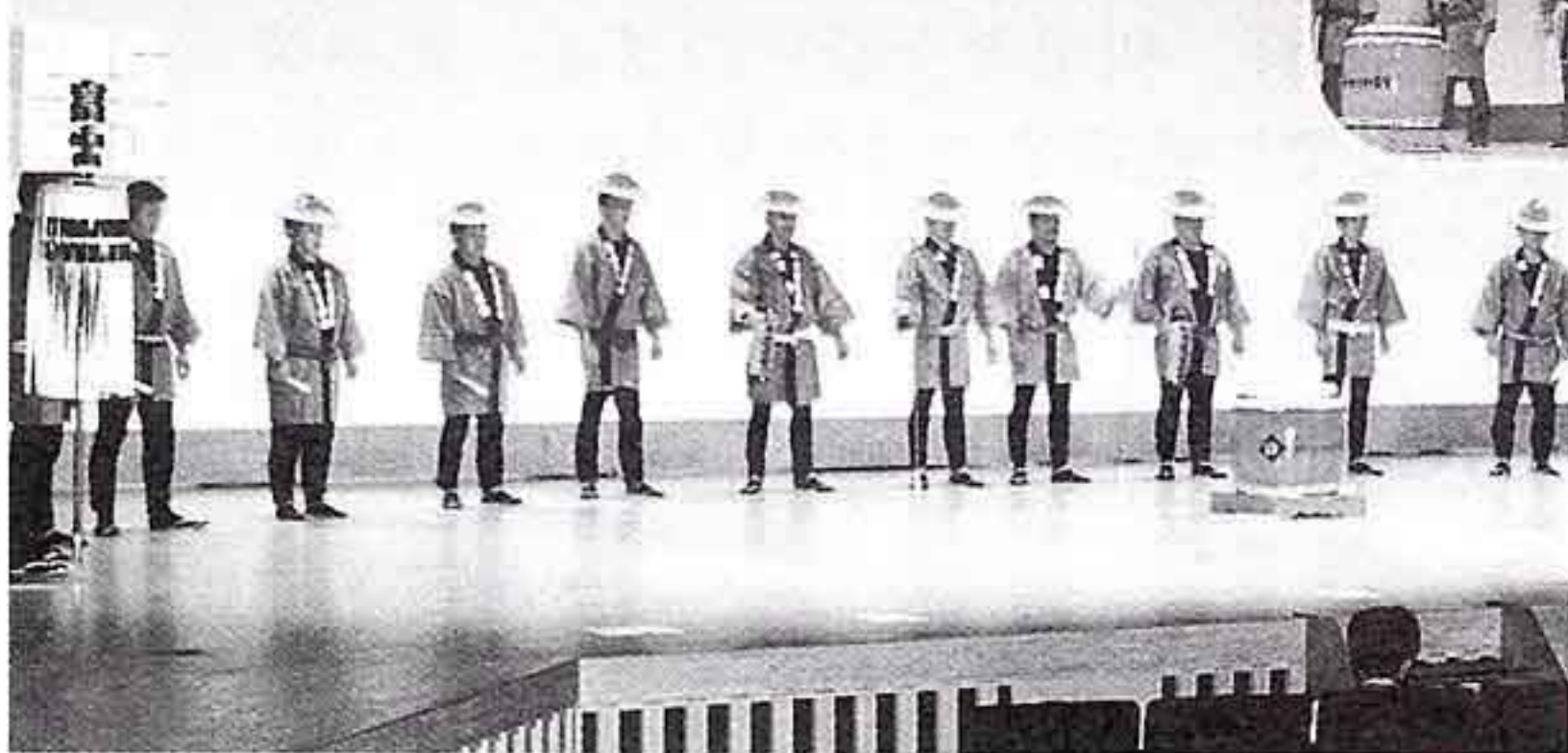


ふ じ き やり 富 士 木 遣



第11回



富士まつり 7月28日(日)

「木遣り」とは、重い物を運んだり、動かしたりするとき、歌う労働歌です。昔は、材木の運搬や船を浜に引き上げるなど、皆で力を合わせるときに歌われていました。江戸時代になると、この木遣りが、お祭りのときに山車やみこしの露払いをするために歌われるなど、労働歌以外としても歌われるようになったそうです。

『富士木遣愛好会』は、伝統芸能である木遣りを、職業や家柄にとらわれずけいこしたいという人が集まり、二十年ほど前から活動しています。現在は、二十代〜七十代まで合わせて二十一人の会員が、木遣りにまといと宮太鼓を加え、力強い歌声を披露し、見る人に感動を与えています。

主な活動は、祝言や建前などはもちろん、お正月に三日市浅間神社、米之宮神社で行う木遣り奉納や吉原祇園祭への参加、富士まつり、ふるさと芸能祭での披露などです。そのほかにも、福祉施設への慰問などボランティア活動も積極的に行い、木遣りの伝統を広く市民に伝えています。



富士木遣愛好会会長
平林 和幸さん (伝法)

富士木遣愛好会は、本当に木遣りが好きな人ばかり集まっているので、出演依頼があればできる限り協力するようにしています。応援してくださいる人には、「愛好会ではなく保存会にしたらどうか」とよく言われます。しかし私たちは、木遣りが好きな人が、自由な発想で活動していきたいと考えているので、二十年たった今も名称を変更していません。

一口に木遣りといってもその歌にはたくさん種類があります。一般的には、祭りや祝言などおめでたい場所での露払いというイメージですが、道中を歩きながら歌うものや、お葬式で歌うものもあるんですよ。

これからも、この富士の木遣りをたくさんの人に聞いてもらい、若い人たちに引き継がれていってほしいと願っています。

こちら編集室

わが家の三男坊が、今春から幼稚園へ行き始めた。この間までは2人の兄ちゃんが乗る通園バスを見送り、恨めしそうな顔をしていたわんぱく小僧が、今はそのバスに毎日乗っている。満面の笑みを浮かべて「行ってきます!」。念

願かなったバスの乗り心地は、大きいかばんを持って余している彼にとって、この上ないものなんだろう。

何はともあれ、子どもたちの笑顔は私たち親への最高の贈り物である。(山の手に住む八方美男)

人口 241,727人 (前月比-507)
 男 120,264人 (-258)
 女 121,463人 (-249)
 世帯 83,117世帯 (+41) 4月1日現在
 編集・発行 富士市総務部広報広聴課
 〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
 ☎51-0123(代) FAX 51-1456

